

AIを用いた歩行空間ネットワークデータ整備 現地実証計画(案)と 神戸市立工業高等専門学校での現地授業

令和8年8月27日
政策統括官付



- 昨年度のバリアフリー施設等データ整備システムでの現地実証に引き続き、歩行空間NWデータ整備システムにおいても、AIを用いたデータ整備の効率化について現地実証を実施する。
- 動画撮影により、リンク属性の自動抽出を行ない、機能性・操作性・作業効率化の検証を行う。

実施概要(案)

目的	AIを用いたプロトタイプシステム及び歩行空間NWデータ整備システム(既存)を使用してデータ整備の現地実証を実施することで、技術的な課題やほこナビDPの効率的な運用を検証するとともに、継続的なほこナビDPのデータ整備・運用(体制等)に係る課題等を検討
時期	2026年10月頃～2027年2月末(予定) (現地実証は1日程度)
エリア	現地実証1箇所＋提案範囲

* 現地実証で整備する延長は、公募後に詳細調整
* 現地実証以外の日においてもシステムは利用可能とし、データ整備を進めていただく予定
* 提案範囲が広ければ選定を優位にする予定

検証事項(案)

a. AIを用いたリンク属性の自動抽出(技術検証)及び既存システムとの比較

- 形状データのリンク上を、スマホアプリで動画撮影しながら歩く
- 自動抽出された属性が、整備システム上に反映される
- 既存システム整備結果との比較



- 技術的課題の検証
- 機能性・操作性・作業効率化の検証

b. 歩行空間NWデータ整備システム(既存)を用いたデータ確認・修正

- 左記システムによる抽出結果の確認・修正
- 現地実証外(提案範囲)のデータ整備



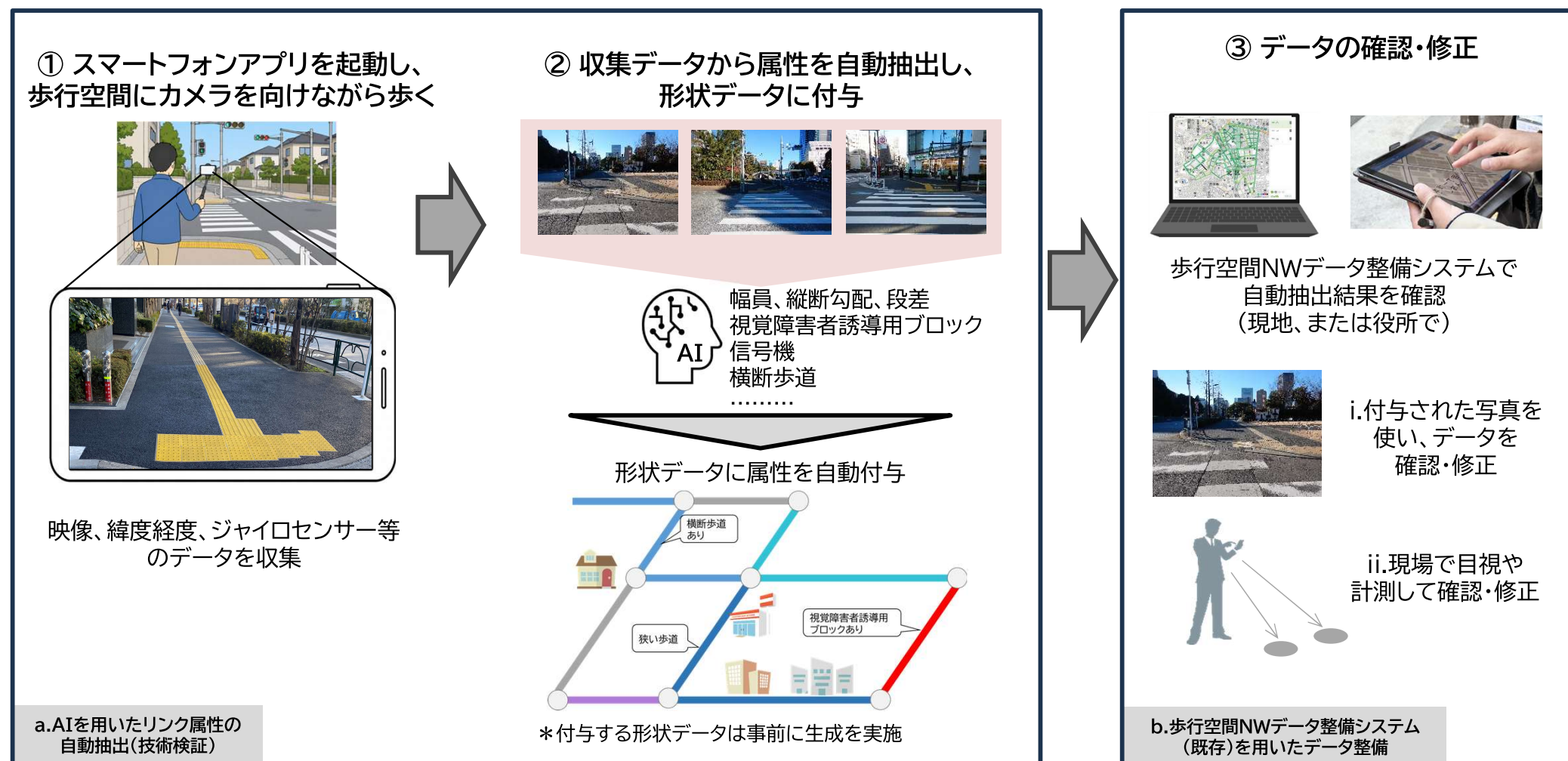
- システムを利用する際の課題等の確認
- 継続的なデータ整備・運用(体制等)に係る課題等の確認



* バリアフリー施設等データ整備システムについてもシステム紹介の上、データを整備いただく。

現地実証におけるデータ整備イメージ

- ①新規開発のスマートフォンアプリ上で形状データの開始地点と終了地点を指定。カメラを向けて動画撮影しながら、その経路を歩く。
- ②バリア(幅員・縦断勾配・段差)や設備(点字ブロック等)がAIにより自動抽出され、形状データに属性が付与される。
- ③属性の確認や修正を歩行空間NWデータ整備システム(既存)を使って実施、AI活用による効率性向上効果を検証。





- 実施主体(自治体等)については公募により選定する。
- 選定に当たっては、「データ整備・更新の方法が具体的であること」や「利活用が提案されていること」を特に優位に評価する要件とする。

募集要領の概要(案)

対象者	地方公共団体 または 地方公共団体を構成員とする協議会	実施項目						
		8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
		実施主体選定						
		実証準備～実施						
公募期間	2026年8月下旬～2026年9月中旬(予定)	成果とりまとめ						
実施期間	2026年10月頃～2027年2月末(予定) (現地実証は1日程度)							
提出書類	以下の概要記載の「提案書」を提出していただき、選定基準に基づき総合評価							
選定基準	以下の要件を考慮の上、総合的に評価を行い実施主体を選定							

背景

R7年度第2回WGにて、以下の意見をいただいた。

- 施策を普及させる段階が最も難しく、いかに負担なく周りを巻き込めるかが重要になる。
- 市民とのまち歩きイベントによるデータを整備も有効であるが、事前準備や広報活動にかかるコストが課題である。
- 小学校の授業の一環としてまち歩きを実施し、データを収集した実績があることから、プログラムをパッケージ化して展開することで、データ収集の効率化につながる可能性があるのではないか。

目的

教育機関と連携したデータ整備プログラムのパッケージ化により、多様な主体を巻き込んだ効率的なデータ収集の実現可能性について検討する。

対象

高等専門学校の5年生



事業内容(案)

1. 事前学習(座学)

- ① バリアフリーの必要性(仮)【国土交通省】
- ② 神戸市におけるバリアフリーの取組み(仮)【神戸市】
- ③ 歩行空間ナビ・プロジェクトの施策概要【国土交通省】
- ④ データ整備の方法について【国土交通省】

2. フィールドワーク

歩行空間ネットワークデータ整備システムを活用して、グループで学校周辺のデータを整備(ランク区分の入力・形状データの編集)を実施

- ・ 1班あたり5～6名で班を構成
- ・ グループ内で、現地確認担当、データ入力担当を交代しながら実施
- ・ グループ毎に、現地確認やシステム操作をサポートする対応員を1名配置

3. グループワーク

グループでシステム導入による期待や課題を議論

- ・ 対応員を配置し、議論をサポート